

5 単元計画

単元の 評価規準	関心・意欲・態度	(読む) 能力	知識・理解
	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているかを捉え、言葉の美しさや深さに気付こうとしている。	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。	和歌の修辞や、語句の用い方について理解している。

次	時	観点ごとの評価規準			評価の方法 Cの生徒への手立て	評価規準を実現するための活動	指導上の留意点・ポイント
		関心・意欲・態度	(読む) 能力	知識・理解			
1	1 2			和歌の修辞や、語句の使い方について理解している。	<p>【行動の観察】 机間指導により学習状況を確認する。</p> <p>Cの生徒への手立て 机間支援を行い、適宜ヒントを与えるとともに、できている生徒に支援をさせる。</p>	<p>○和歌の形式・基本的な決まりについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌の修辞技法について学ぶ。 教科書掲載の万葉集の和歌を数首取り上げ、文法事項を整理し解釈を深める。 次回以降、グループで調べる和歌を決定する。 調べる和歌について、便覧を用いて訳及び文法事項などを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる和歌について、事前に「春・夏・秋・冬・恋」の5つに分類し、リスト化して生徒に提示する。 調べる和歌は予め指導者側でくじを作り、くじに書かれていた番号のものを調べるよう指示する。
2	3	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。			<p>【記述の確認】(プリント) 記述の内容で学習状況を確認する。</p> <p>Cの生徒への手立て 調べるテーマについて、指導者側からヒントを与え、資料が探しやすくなるように配慮する。</p>	<p>○グループごとに、調べる和歌についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べ学習に入る前の段階で、わかることとわからないことを個人で整理する。 個人で整理した情報を基に、グループで話し合い、調べる内容およびテーマを決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを設定する際のヒントとして、和歌の主題となるもの(例:季節の風景・色彩など)に着目するよう伝える。 生徒のプリントの記載内容を踏まえ、参考文献の収集および図書の別置を学校司書に依頼する。
	4 6				<p>【記述の確認】(レジュメ) レジュメの記述の内容で学習状況を確認する。</p> <p>Cの生徒への手立て 机間支援を行い、資料探しやまとめのヒントを与えるようにする。</p>	<p>○指定された和歌についての調べ学習を行う。(於 図書館)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに図書館にて調べ学習を行う。 文献資料にあたりテーマへの理解を深める。 調べた資料をもとに、発表用のレジュメ(B5版1枚)、および発表原稿(3分以上5分以内を目安)を作成する。 調査で用いた文献についての参考文献リストを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、目標を設定したうえで文献調査を行うよう指示する。 生徒の疑問やレファレンスにすぐ対応できるよう、学校司書と協力しながら、机間支援を行う。 完成したレジュメはクラス毎に冊子化し、全員に配布する。
3	7 8	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているかを捉え、言葉の美しさや深さに気付こうとしている。			<p>【行動の分析】(発表) 発表の内容で学習状況を確認する。</p> <p>Cの生徒への手立て 発表内容をグループで検討する活動、および評価シート記入の中で、内容を確認・共有できるようにする。</p>	<p>○グループ発表を行い、和歌の解釈の理解を深める。(於 教室)</p> <ul style="list-style-type: none"> 分類(春・夏・秋・冬・恋)ごとに発表を行う。 グループ発表の終了ごとに質問をし、和歌への理解を深める。 発表の内容について、評価シートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表について、分類ごとに「どの発表がより和歌の魅力が伝わったか」という点に着目し、全員で投票を行う。 勝敗は色のカードを上げさせ(カードは予め指導者側で準備)、数の多いほうを勝者とする。
	9				<p>【記述の分析】(プリント) 記述の内容で、和歌について調べた内容が理解できているかを分析する。</p> <p>Cの生徒への手立て 振り返りシートについて、箇条書きで記入させ、書く内容を整理しやすくする。</p>	<p>○本単元の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べ学習を通じ、学んだことについて個人でまとめる。 振り返りについて、文章で記入する。 	

6 授業構想メモ（本時の流れ 7/9）

具体的な評価規準と評価方法	学習活動
<p>【評価規準】 人物、情景、心情などを、どのように描き手が描いているかを捉え、言葉の美しさや深さに気付こうとしている。</p> <p>【評価方法】 発表の内容で、学習内容を確認する。</p> <p>Cの生徒への手立て 発表内容をグループで検討する活動の中で、内容を確認・共有できるようにする。</p>	<p>○グループ発表を行い、和歌の解釈の理解を深める。（於 教室）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメ冊子を配布する。 ・分類（春・夏・秋・冬・恋）ごとに発表を行う。 ・発表について、各グループ3分以上5分以内で行う。 ・グループ発表の終了ごとに質問（生徒同士および指導者・学校司書から）をし、和歌への理解を深める。 ・発表の内容について、個人で評価シートに記入する。 ・分類ごとの発表が終了した後、「どちらの（どの）発表がより和歌の魅力が伝えられていたか」という点に着目し、全員で投票を行う。 ・投票は色のカードを上げて行う。（カードは予め指導者側で準備）数の多いほうを勝者とする。 <p>※発表について、【春・夏・秋・冬・恋】の分類ごとに、上記の手順で繰り返し実施。</p>

7 振り返り

国語科（国語総合）学習指導案

神奈川県立横浜南陵高等学校 稲崎 由依

- 対象・日時 第1学年
平成26年（2014年）2月中旬実施
- 単元名 古典分野 「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」
- 本単元の目標（学習指導要領の指導事項）
 - ・和歌に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。（関心・意欲・態度）
 - ・和歌に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。（読む能力 ウ）
 - ・国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（ア））
- 単元・題材・教材について

主たる目標は「和歌に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと」（読む能力 ウ）とした。

和歌を授業で扱う際の課題の一つとして、文法事項など、一方通行の説明になりやすく、生徒に和歌の奥深さや表現の豊かさが伝わりにくい点が指摘できる。そのような課題への打開策の一つとして、生徒が自分で調べ、発表するなかで、和歌の魅力を感じられるような授業を展開できればと考えた。

今回、本単元では、和歌の読解の基礎を学んだ上で、「和歌の魅力を伝える」という目的で資料を収集し、プレゼンテーションを行う。授業で学習したことを土台に、生徒が自分で調べ、考え、まとめ、発表を行うという一連の過程を通じて、授業で学習したことを実践する場を設け、和歌に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことの面白さを実感させたい。

なお、調べる和歌として、以下の13首を生徒に提示した。当初、学習活動として、生徒に好きな和歌を主体的に選ばせることも検討したが、和歌の学習の初期段階であることから、この時点では生徒自身が好きな和歌を選ぶことは難しいと判断した。

以下の13首は、基準として、「和歌に詠まれている主題・情景が捉えやすいと判断できるもの」および「和歌特有の表現技法が含まれるもの」を中心に、予め指導者側で選んだものである。

 - 【春】33. ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ
35. 人はいさ心もしらずふるさとは花ぞ昔の香にほひける
 - 【夏】02. 春過ぎて夏来にけらし白妙の衣ほすてふ天の香具山
36. 夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月やどるらむ
 - 【秋】05. 奥山にもみぢふみわけ鳴く鹿の声聞くときぞ声はかなしき
17. ちはやぶる神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは
91. きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに衣かたしきひとりかも寝む
 - 【冬】04. 田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ
31. 朝ぼらけありあけの月と見るまでに吉野の里に降れる白雪
 - 【恋】18. すみの江の岸に寄る波よるさへや夢の通ひ路人めよくらむ
21. いま来むといひしばかりに長月のありあけの月を待ちいでつるかな
46. 由良のとをわたる舟人かぢを絶えゆくへも知らぬ恋の道かな

【現代版歌合..和歌に込められた思いをさぐる】

☆ 和歌を解釈し、和歌に込められた思いを深く詠みこめるようにする。

△進め方▽

・「春」「夏」「秋」「冬」「恋」のなかの**1つの和歌について、グループで調べ、まとめる。**

(※すべて百人一首から。古今和歌集・新古今和歌集の、

春(2つ)、夏(2つ)、秋(4つ)、冬(2つ)、恋(3つ)。

グループと和歌はくじで決めます。)

・グループ(原則3人)で、決められた和歌について調べ、読みを深める。

・調べたこと、考えたことについて、**A4の紙1枚にまとめる。スマホ使用不可。**

(レジュメとして全員に配布します。)

・全員の前で**3分以上、5分以内で発表。全員が話すこと。**ただし、レジュメを読むだけでは×

・同じテーマのところでは対決。どちらがいいか**(和歌のイメージがよく伝わったか)**

全員で投票。数が多かった方が勝ち。

...という流れでやります。協力して、がんばってね。

△レジュメについて▽

・A4用紙1枚。横向きに置いて縦書きに使う。(資料を参照)

・印刷するので、**ペン書き**すること。

・絵や図、表をいれても構いません。見た人が分かりやすいレジュメを心がけましょう。

△レジュメに載せてほしいこと▽

①発表のテーマ ②グループメンバー ③指定の短歌(通し番号・作者も記入する)

④文法事項・修辞の説明(便覧を参考に) ⑤和歌の口語訳(自分たちで工夫して、**現代風にして!**)

⑥その歌について調べたこと、考えてわかったこと

(表現について、作者について、修辞について、和歌に出てくるもの・場所について...など)

⑦**参考文献**(調べるのに使った本。作者、タイトル、出版年度、出版社の順。)

⑧あとは自由に書いて(描いて)かまいません。

△読み解く際のポイント▽

読みを深める際に、手掛かりにしてほしい点です。もちろんこれ以外にもポイントがあるので、話し合いをしながら色々調べてみてください。

①春..花の描写 ②夏..色合いや、時間帯など

③秋(1)..秋の草花

④秋(2)..生き物

⑤冬..色合い、自然の描写

⑥恋..恋のモチーフ

個人用ワークシート

グループ活動に入る前に、自分の考えを一度整理しておきましょう。

メンバー…(

)

☆調べる和歌

番号 () 作者 ()

)

☆(現時点で)この和歌についてわかること ※便覧参照可

☆(現時点で)この和歌についてわからないこと

☆調べてみたい事・メモ

グループ用ワークシート

話し合いの内容などを整理しておきましょう。

メンバー（

）

① 発表のテーマ

③ 指定の短歌（通し番号・作者も記入する）

④ 文法事項・修辞の説明（便覧を参考に）

⑤ 和歌の口語訳（自分たちで工夫してね）

⑥ その歌について調べたこと、考えてわかったこと
（表現について、作者について、修辞について、和歌に出てくるもの・場所について…など）

⑦ その他・構想メモなど

参考文献リスト レジューメと一緒に提出すること。

【著者名・出版年度・本のタイトル、参考にしたページ数・出版社】の順で並べる。
※原則、著者名は五十音順（日本語文献の場合）。

◆和歌の番号（ ） 和歌（

メンバー（

）
）

著者名	出版 年度	タイトル	ページ 数	出版社



振り返りシート

◆ 自分自身の取り組みについて振り返りましょう。

① 和歌に対する理解が深まったか。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
② 様々な資料にふれることができたか。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
③ 自分で課題意識を持ってとりくめたか。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
④ 周囲の意見を聞きながら話し合ってきたか。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
⑤ 古典（和歌）のおもしろさを感じられたか。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

◆ 調べ学習・発表を通して、感想や意見を書いてください。（たくさん書いてね。）

